

第9回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成26年10月25日（日） 午後4時から午後5時まで
- 2 場所 川崎区役所7階会議室
- 3 参加者等 参加者8名、傍聴者2名
- 4 概要

（1）市長挨拶

皆さんこんにちは。今日も御参加いただきましてありがとうございます。川崎区では2回目の開催となります。今日も建設的でごつくばらん意見交換をしてみたいと思いますので、どうかよろしくをお願いします。

A 健康・福祉について

石川さん: 石川です。私の思っていることとといいますか、頭に浮かんでいることを提案したのですが、選んでいただいてありがとうございます。

私は定年してから時間が経っているんですけど、朝ラジオを聞いていますと、ラジオ体操が6時半から毎日のようにやっていて、ラジオ体操にこれから行くのよというのが入っていて、それを聞いていて、私も含めて体を動かさないとやはり健康寿命は伸びないんじゃないかなと感じたんです。川崎も非常に高齢者が多くて、老人施設というんですか、たくさんできているわけですけど、そっちでまかなうより、国もいっているように、健康寿命を延ばしていったらどうかということで考えついたんですけど、ラジオ体操にもっと参加するように市で促したらどうかと思ってこういう文章を書きました。ラジオ体操に行くためにはそこに足を運ばないといけませんよね。どのくらいこの川崎市内でラジオ体操をやっている方がいるかわからないですけど、区内だけでも何箇所かはあると思うんですね。私は定年退職してからスポーツジムに行っているんですけど、そこでお会いしている人の中にもやはりいます。この近所でもやっていたら、そこに出かけて運動するというと、その全部を入れると1時間ぐらいのウォーキングとかになりますので、健康寿命は伸びるんじゃないかなと思ってこのように書きました。よろしくをお願いします。

市長: 石川さん、ご意見ありがとうございました。健康体操というかラジオ体操のようなものというのは、実は川崎市内各区で非常に活発に行われておりまして、各区名称がそれぞれ違うんですけども、川崎区はほほえみ元気体操という名称、幸区は日本一だよ幸区というテーマの体操がやられていたり、各区それぞれ地元から自立的に出てきた体操が全区にある。それを各区ごとに広めていただいているということで、それら全体をまとめて介護予防大作戦ということで健康体操等をやっている区は非常に多いですし、市政だよりなどでもこういった特集を組んだり、あるいは川崎区でもこういった

体操についての広報をしっかりとやらしていただいて、こういう体操ができますよなんていう写真を使った広報をしたりしています。今石川さんがおっしゃった健康寿命の話というのはとても大切で、残念ながら川崎市の健康寿命と全国の平均寿命の差というのは広がっているんです。女性だと大体 13 年、男性だと 10 年。お亡くなりになるまで、何らかの介護だとか寝たきりだとかそういった状態になってしまっただから、だいたい 10 年とか 13 年というのは、全国よりも期間が長いです。これは非常に残念なことでありまして、高齢者施策を考えていく上で、元気な高齢者の方と本当に介護とかが必要な方とを、高齢者一括りではなくてしっかり分けて考えていかなきゃいけないと思っております。ですから石川さんのご提案の、介護が必要にならない、健康寿命を延ばしていくという体操の取り組みはこれからもしっかりとやっていかなければならないと思っておりますので、広報にもしっかりと力を入れていきたいと思っております。ありがとうございます。

石川さん：お話はよくわかりました。私も詳しいことはわからなかったんですけど、今聞いてわかって良かったと思います。ぜひ川崎市全体で、年に 1 回くらいお祭りみたいなものをして、例えば川崎球場でやるとか等々力でやるとか、そんなように盛り上げたらどうかと思いました。付け足させていただけます。

市長：ありがとうございます。もともとこの体操の始まりが、川崎市全域でというよりもそれぞれ各区から上がってきた取り組みなんですね。ですからそういった主体の人たちと機会をみてそんな話もしたいと思えます。ありがとうございます。

関さん：関です。

生活保護の制度について、生活保護受給者が川崎市 7 区の中で川崎区が一番多いのではと思います。そして生活保護をもらい働いて収入を得ている人がいるかもしれないので、専門知識を持っている警察の OB の方に調査を依頼したらどうでしょうか。これから先も生活保護を受給する人が増えつつあると思います。皆様の税金からなので、どこかで歯止めをしなければならぬと思います。

市長：関さんご質問ありがとうございます。ご指摘のように、川崎区が川崎市の中では生活保護を受給されている世帯が 1 番多いところになっています。この数年の傾向を見ていると、生活保護の受給世帯というのは右肩上がりに伸びてきたということですが、ようやくここにきて高止まりというか、伸び続けてたのが止まりまして、ようやく去年は少し止まったという感じはあるんですけども、必要な方に対してある生活保護制度ですから、それに対するしっかりとした対応はしていかなければならないと同時に、不正受給されている方が残念ながらいらっしゃるという事は事実です。昨年度の統計によると、だいたい 520 件もの不正受給がありまして、その総額 2 億 5,000 万円を超えております。これは各自治体の共通の悩みでして、この不正受給対策をしっかりとやっていかなければならないということで取り組んでいます。警察官に活躍していただいたらどうかというお話ですけども、今現在警察の OB の方 2 名に入っていて、いろんなことに相談に乗っていただいたり、あるいは私も就任してからこの間に、福祉事務所で行政に対する窓口で暴力を振るうとか、そういう案件がもうすでに数件発生していて警察のご厄介になるケースもあるんですね。そういう時も相談に乗っていただいたり迅速な対応

ができるように、警察の OB の方にご活躍いただいているところです。不正受給している非常に悪質なものに関しては、しっかり市として告訴できる体制をとるために、25年度からそういった体制を検討するように整えました。ですから、必要な方に必要な生活保護をしっかりとお届けするために、不正があっては絶対にならない。その原資は皆さんの大切な税金ですから、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。ありがとうございます。

B 個別意見

市川さん： 福田市長には就任以降非常に御活躍のことで、特に地域活動を重視されていて色々な事をされているということでありがたく思っております。私も町内会活動に関わっているんですけど、とは言っても定年後数年なんですけど、その中で経験して考えることが多かったんですけど、福田市長さん、立候補した公約の中に、シニア世代というか、高齢者のボランティア活動を支援していきたいと、積極的に地域の活性化にとかそういったものに関わるように支援していきたいといういろんな内容が含まれていると思うんですが、そういった公約があったのかなと思います。近頃自治会町内会活性化条例、これは議員立法なんですかね、そういう動きがあると聞いておりますので、そういうことも絡めてお考えを伺いたいということと、一つ私の経験なり問題意識ということを簡単に説明いたしますと、私もわずか数年くらいの経験なのでもっと豊富な経験をお持ちの方、いろんな意見をお持ちの方がいると思えますけれども、一番問題を感じるのは、町内会に流れてくる、流れてくるというのはちょっと変なんですけれども、行政は非常に努力をされて色々な地域活動に取り組んでおられるんですけども、そういった課題が大分多くなってきて、それを担う町内会の体力や仕組みがついていってないんですね。そう強く感じております。お祭りとか皆さん楽しくやられる、そういう場は非常に大事なのですから、今もなんとかやっています。ただこれから必要な、いろいろな防犯防火防災、こういったことで大きな課題が膨らむ中で、これにどうやって取り込んだらいいか。やはり高齢化する中で、団塊世代が多いということで、彼らは元気ですから、私も元気ですし、こういう人たちをどうやって取り込んでいくか、どうやって楽しい地域活性活動のボランティアに参加していただくかということが大事なので、それに対する具体的な道筋というか、私もいくつか提案できればいいのですが、時間だと言うことなのでこれで終わりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長： 市川さんありがとうございます。市川さんもお仕事定年されてから町内会活動に参加していただいているということで、本当に心強いしありがたいと思ひます。町内会自治会の皆さんには、今ご指摘いただいたとおりですけれども、本当にいろんなことで行政側からお願いすることがたくさんありすぎて、それを受け止められるだけの体力が本当にあるのかというご指摘の通りだと思います。そのことに対してすごく危機感を持っています。実際には町内会自治会がないと地域は成り立たないと思ひていますが、それを支えていただいている方々の高齢化が進んでいて、新規のなり手がなかなか入ってこないことに非常に危機感を持っています。今回市議会の方から、町内会自治会を活性化するというのか、加入促進なんでしょうか、そのための条例を検討されているということで、内容は私も詳しくは伺っていないんですが、支援をしていくという内容なんじゃないかなと思ひますけれども、そういった

事にも非常に期待をしているところです。過度なお願いばかりになっているというのも、私もそういう感覚はありますので、本当にお願いすべきことなのか、その実態を踏まえて整理しなければいけない部分というのはあると思っていますので、少し勉強させていただきたいと思っています。町内会自治会だけでなく、地域のボランティア団体ではものすごく活性化しているところもあって、自身の関心のあるテーマのことについて非常に積極的に参加されているということで、これはまたありがたいことなんです。ありがたいことなので、自分の持ち味を持っておられる方をどうやって繋いでいくか、繋いで地域の中でご貢献いただけるかということが大切だと思っています。そういった意味では、各区の中に中間的な支援というか、繋ぎ合うところがこれからもっともっと充実していかなければならないと思っていますので、そこは区の間支援組織みたいなものと、あるいは中間支援そのものが NPO だったりボランティアだったりするので、そこを強くしていかないと、せっかくいいものが 1 つにまとまっていけない、地域の中に落ちていかないということになりかねませんので、そういうところに力を入れていきたいと思います。今年になってから始めた地域の寺子屋というのも、各区 1 カ所ずつ取り組みを始めています。モデル校ですけれども、段々とやっていきたいと思っていますが、それでも地域の人材、特にシニア世代の方々にお知恵を拝借できればなと思っていますし、そういったものがもっと広がっていけばいいなと思っています。今私が思いつくのはそういうところです。ありがとうございます。

市川さん：福田市長がおっしゃったこと、非常に問題点をつかまれておられるな、失礼ですけれども私より経験が豊富なので当然だと思いますが、しっかりされていてありがたいお話だと思います。具体的に言いますと、やはり今言われたこと全て、1 番大きな問題点をついたことばかりだったんですね。確かに、今、例えば地域振興課という部署がありますけれども、そういった方たちも非常に応援してくれているのですが、やはり町内会活動と、市長が言われたようないろんなボランティア活動を結びつけるようなことも含めて、もう少し総括的な支援をできるようにしていただけたらいいなと思います。例えば市が強力に進めておられる花と緑とか、こういったものはよくありますね。川崎区もビオラを配布するとかそのようなこともあるし、市全体のそういう動きがある。音楽なんかもそうですね。そういう芸術文化に関する活動に参加するボランティアさんはいっぱいおります。しかし町内会と繋がらないところがあるんですね。町内会に加入はしておられるので、求めるのは加入の問題もあるんですけれども、加入数を増やすという問題もあるんですが、加入しておられて町会活動にボランティアもやっていながら町会活動と繋がらないということが 1 番大きな問題かなと思っていますので、是非よろしく願いしたいと思います。

市長：ありがとうございます。本当に市川さんがおっしゃる通りで、問題意識は私と全く一致していて、そのあたり知恵と工夫の出しようだなと思っていますので、これは行政だけが頑張る話ではなく、また市民の皆さんだけをお願いする話でもないの、これは本当に同じ思いを持って前に進めていくという、そういうことをこれから各区役所あるいは市全体としても取り組んでいきたいと思っています。

赤嶺さん：赤嶺と申します。よろしく申し上げます。

私の特技、ボクシングと塗り絵です。まずは塗り絵、子供たちにあげたりするんですけれども、私が

この10年で非常勤で回った学校に約400冊ほど、子供たちにプレゼントしました。各学校にこのような感じで毎日30分から1時間半は描いています。子供たちが非常に喜ぶので。私のプレゼントということで、子どもたちからも大変喜ばれております。それが1つ。本題はボクシングです。今日参加した方、せっかくの縁で私も初めてですので、私の発表するボクシングに関しての記事を3枚に集約しましたので、良かったら後でお持ち帰りください。私は大学でボクシング部を創設して今も現役のボクサーです。今は2つ目のジムの大橋ジムで20代30代の若いボクサーらとグローブを交えています。後はいろいろな新聞や武道雑誌やボクシング専門誌にいっぱい載っておりますので、まだまだいっぱいあるんですけども、そういうのをまとめました。それが私の特技で、今までたくさんのプロボクサーにアドバイスしたり小学校のボクシングクラブ活動で教えたり、今もALTのアメリカ人を教えたりしております。数名の日本チャンピオン、アマ日本チャンピオン、プロ世界ランカーA級ボクサーが育てた学校から出ておりますので、私の特技をよければお役に立たせたいということです。リクエストがあれば喜んで有償ボランティアでやります。以上です。

市長：赤嶺さんありがとうございました。塗り絵の配布を子供たちにして頂いているということで、本当にありがとうございます。こういった、先程の市川さんの話ではありませんが、それぞれの特技を地域の中で役立てていただいているということに心から感謝申しあげたいと思っております。ボクシングの育成をこれからも頑張ってくださいと思います。以上です。

赤嶺さん：機会があれば私は喜んでいつでも指導に当たりますので、一緒に運動もしますし、そういう形で何かお役に立てればという気持ちが強いです。夏休みでもいいし、仕事が10月からはありませんので、時間を持て余していますので、自主トレだけでは寂しいので、何かお役に立てると思います。プロボクサーにも慕われておりますので。以上です。

石渡さん：下並木在住の石渡です。本日は市民から生の声を聞き、その中で市政運営に活かしたいと考える市長と直にお話できるチャンスを与えていただきありがとうございました。

私が日頃川崎について思うことの1つですが、よく他所の土地で川崎のイメージを尋ねることがありますが、今の川崎を知らない多くの人たちは、今でも川崎のことをお大師様、あとはかつての京浜工業地帯のイメージをされるのか、公害の町かなと言われます。冗談ではございません。今、川崎は多摩川と鶴見川に挟まれた細長い地形を生かして、東京横浜には無い一步先をいくオンリーワンを求め、人間性あふれる住みやすい街の日本一を目指して発展していると私は思っております。そんな中、特に私が今日提案したい事は、東京オリンピックを目前に控え、観光資源という視点から、昔から川崎に存在している、江戸から京に続く歴史的価値のある東海道。道そのものですね。今では砂子町まではかなり東海道らしく整備されておりますが、実はその先、鶴見に至る市境まで、距離にしてわずか870メートル、いわゆるこれが八丁畷というのですが、ただただ道というだけで、ここが由緒ある歴史街道だというイメージが沸きません。六郷を渡って市境まで距離にしてわずか2キロ強、しかも市道ということであれば、その全域を整備しても予算上それほど難しい事業とは思えないので、9年後には川崎宿が誕生してから400年、その翌年は市制100年を迎えます。それまでに整備された東海道は、川崎が先駆けとなって全国に自慢のできる大きな観光資源の目玉になると思いますが、お答え願いたいと思います。

市長: ありがとうございます。東海道はおっしゃるようなものすごく価値のあるものだと思います。川崎宿の交流館も、当初予定していたのは1年間に3万人から4万人といわれていたのが、1年間で6万人に達するくらい、当初の倍近くお客さんが訪れているということで本当に嬉しく思います。私も何度かお邪魔しましたが、非常に賑わっているというか、特に先ほどから出ているシニア世代の皆様が、ウォーキングで大田区の方からとかずっと歩いている姿を見ると、観光としてのポテンシャルが非常に高いなと実感しています。先日も大田区の方とお話をしまして、今月の18日だったですか、イベントもやって、大田区と川崎を繋いでウォークラリーをやるということ、あれも相当賑わっていた。1,000名近くいらっちゃって。大田区の方からだったので大田区の参加者の方が多かったと聞いていますけれども、今度は逆バージョンでやれば川崎市側の参加者ももっと増えるんじゃないかなと思っております。こういうことで、一緒に知って頂くという事はとても大切だと思っておりますし、市境までの八丁畷のところは、しっかりこれからもこういったものを繋げていくというのは重要だと思っております。品川大田川崎とずっと繋がっている。この前藤沢の市長さんと話したら、藤沢の方でも東海道の話で盛り上がっているということなので、やはりこういうものは繋がっているということが大事だと思っておりますので、そういった盛り上げ方をこれからもしていかなければいけないと思っております。2023年には400年ということで大きな節目を迎えるので、それに向けて一緒に盛り上げていければと思います。この前、夏の暑いときだったですけれど、川崎信用金庫の本店のところでもシャッターに浮世絵を貼っていただいたり、やはり街をあげて街道をあげてやっていくことが重要だと思っておりますので、いろんな主体の皆さんと一緒に盛上げていきたいと思っております。

石渡さん: 私は下並木に住んでいますので、川崎宿の1番のハズレですよ。皆さん川崎宿と言うのは大体小土呂橋までを川崎宿とってそれから先は全く無視されている状況なんです。実際には、鶴見の鶴見市場を渡って、鶴見川の手前までが昔は川崎領だったんですね。本来は、昔でいえば、多摩川から鶴見川まで。これを川崎の宿場の街道筋だという事を認識して頂いて、市政に生かしていただくとうれしいなと思っております。

市長: ありがとうございます。この前、どこの車座だったですか、川崎市の名前を変えたらどうかという非常にびっくりした提案があったんですけども、東海都市にしたらどうかという話があったくらい想いを強く持っておられる市民の方はたくさんいるので、おっしゃるようにまずは知っていただく、そしてその財産を生かしていくということに、これからもしっかり取り組んでまいりたいと思っております。ありがとうございます。

濃野さん: 濃野と申します。

バイクの置き場について困ってまして、市長選挙があった時に前市長が駅前でタスキをかけていらした時に、もし当選されたときには是非バイク置き場を区役所の前、陸橋の橋の下、階段の下の三角のところ、そこにバイク置き場を設置して欲しいというのを伝えたんですけども、落選しました。今度は若い市長さんになられたので、行動的にやっていただけるような気がして今日出席しました。浜田議員にもその話はしてお願いしたんです。本庁の方にバイク置き場があると言われたんですけども、そこ

は数台しか置けません。整理している方に聞きましたら、バイク置き場は朝出勤する方が使っちゃうのでだいたい満車になっていますということなんです。だから、区役所に来る場合には、車の方、歩行の方、自転車。バイク置き場が全くない。前は青葉館というスーパーの前にバイク置き場がありましたが、それもなくなってしまって、バイクで来れないんですね。私は区役所に1か月に1回から2回くるんですけど、とても不便なんです。せっかく自転車置き場が出来ましたけれど、なんとかバイク置き場を造っていただけたらと思います。来る時も見たら、自転車置き場の間隔が短すぎて、あれでは自転車が置きづらいのではないかなと思いました。以上です。

市長：濃野さんの乗っておられるバイクは何ccですか？

濃野さん：50ccです。

市長：50ccですか。この川崎区役所に来られるときに困っているということですか？

濃野さん：そうです。他にも買い物とかに行きますけど、区役所に行くときに置き場がなくなって困っている。

市長：わかりました。区役所のところですけど、30台くらいの自転車を置くスペースがあって、確かに間隔が短いというのはあると思いますけれど、そこは50cc以下のバイクであれば駐輪オッケーということになっています。

濃野さん：今現在、自転車の置き場が整理されていますけれど、そこに50ccのバイクを置いてもいい？

市長：置ける。50cc以上の大型バイクになりますとそこには止めてはいけませんけれど、今でもご利用いただけるということになっております。

濃野さん：それはよかった。安心しました。

市長：ご利用いただければと思います。

(注：50cc以下のバイクが駐輪できるのはパレールビルの駐輪場です。市役所通り沿いの川崎駅東口周辺自転車等駐車場第6施設(ラック式)は自転車専用です。)

渡辺さん：川崎区の渡辺です。ヘイトデモの話をします。

5月の幸区の車座集会で市長はヘイトスピーチを批判なさいましたが、その後7月には市長への批判を題目とするヘイトデモが行われました。今月も行われる予定でしたが、幸いにも台風のため延期になりました。市長は差別の根絶には教育が重要とおっしゃいました。教育も大事ですが、時間がかかりすぎます。ヘイトデモへの対処は急務です。ヘイトデモを放置すれば必ず被害があります。2月にはデモの

参加者が模造刀で市民を切りつけました。川崎のデモとは関係ありませんが、今日も在特会の会員及び関係者が傷害容疑で逮捕されました。ヘイトデモを行わせない対策が必要です。国連の是正勧告が効いたのか、政府もプロジェクトチームでヘイトデモへの対策を討議しています。国立市、名古屋市、奈良県の議会は、ヘイトスピーチの法規制を求める意見書を可決しました。ヘイトデモが定期的に行われている川崎市も遅れをとるべきではありません。差別撤廃宣言や条例でのデモの規制など、出来る事は沢山あります。条例の制定が無理なら、集会場所の公園とデモコースの道路の使用許可を行政と警察が許可を出さなければデモを行う事はできないはずで。善処望みます。大阪市長は在特会会長と面談して問答無用で叱り飛ばしました。市長も川崎デモ主催者を説教するべきです。以上です。

市長：ありがとうございました。ヘイトスピーチ、ヘイトデモというのが起こっている現状については本当に残念に思います。国籍や人種や性別ということで差別的な言動だとか排斥的な発言が起こっているということは、繰り返し申し上げておりますが本当に残念なことで、本来日本人とか日本の国柄として私は非常に寛容な国柄だと思いますし、そういった精神が日本人の良いところだと思っているので、こういった運動が出ていることがすごく残念に思います。しかし一方で、条例や法律でしっかり縛れというお話がありました。あるいは公園を貸すのはやめたほうが良いというご指摘を受けましたけれども、何をもってヘイトスピーチとするのかというのは非常に難しいところがあって、例えば公園を貸すなどということですが、公園は市の規則に従っていればお貸しするというのはルールなので、違反行為が起きない限り、それはどの団体でもお貸しするということですので、自治体で何をもってヘイトスピーチとするのかというルール作りは非常に難しく困難なものだと思っています。前回もお答えしたかと思いますが、そういったヘイトスピーチだとかそういう物を生まない環境づくりを粘り強くみんなでやっていくということが重要ではないかと思っています。国連からも日本政府に対して勧告が出ていますので、それについて政府が今検討しているのではないかと思います、そのあたりの動向も注視していきたいと思っております。以上です。

渡辺さん：ヘイトスピーチに関する定義に関しては、個人では変更することができない属性を貶めるような発言がヘイトスピーチだという一般的な見解だと思っています。公園等を貸し出すことに関して、規定に反することがなければ貸し出すということであれば、もし犯罪行為や暴力行為が予想されるような団体がデモを行うとか、そういったことが予見される時でも貸し出してしまうのでしょうか。

市長：何月だったか、2月でしたか、一度川崎市内であった時、その時も公園の規則というものには違反していないということでありましたので、その団体にはお貸ししたということと理解しています。

渡辺さん：公園の利用に反しない事はわかるんですけれども、その人たちがデモを行うことによって違法行為が行われる可能性があるという事は想定されていらっしゃるのでしょうか。

市長：これは非常に難しいことで、どの団体の方も何をするか予見すると言うのは全く持って難しい話です。

渡辺さん：予見するのは難しいが、すでに実績のある団体は。

市長：先ほども申し上げたように、ルールに反するような事を行えば次回以降許可しないことになると思います。

渡辺さん：公園の使用を超えた犯罪行為には触れないという認識でいいのでしょうか。

市長：公園の使用許可については、公園の利用許可に関するルールの中で許可の判断をしています。それはどの団体であれ一緒です。ですから違法行為が行われる、あるいはルールに基づかない行為が行われた場合には次からは許可しないということにおそらくなると思います。それはどの団体でもどういう主張をされる団体でもルールは全く一緒です。

スニータさん：スニータです。2011年から川崎に引っ越しお世話になっております。もともと市役所に別の件で行って、この集会についてわかって、本当に何も考えず応募しました。外国人、私以外の知り合いの人に聞いて、メインに困っていることは2つになるかもしれません。

本当に川崎は住みやすいと思いますけれども、問題になっているのが保育園。保育園が、外国人だけではなく日本人も困っているということですのでけれども、もうちょっと何かできればいいかなと思います。それ以外に、ウェブサイトで英語でもっと情報を載せれば、簡単に外国人のみなさんもわかるようになると思います。イベントとか。多分夫婦2人だけとか1人でしたらそんなに気にしないかもしれませんが、赤ちゃんとかが出来ましたら、日本人とも一緒にいきたいし、イベントにも参加したいですけど、すべて日本語になっているのでわからないんです。それについても、いろいろイベントとかを英語で載せれば助かると思います。以上です。

市長：ありがとうございました。1つは保育園の事ですね。これは川崎もまだまだ待機児童がいるということで、具体的に外国籍の方がどのようなことでお困りになっているのかということをおも勉強させていただきたいと思います。調べさせていただきたいと思います。そして英語でのウェブサイトの様々な情報発信ですね。私もどこまで詳しく情報発信しているのかというのは調べさせていただきたいと思います。今川崎市内は人口のおよそ3%だったと思いますけれども、外国籍の方がお住まいになっていますので、言語が英語かどうかというのはありますけれども、今国籍では中国の方が1番多いですが、最近インドの方も非常に増えてきていますし、様々なお国の方が川崎を選んで住んでいただくというのはまさに国際都市川崎という特徴を見せているのではないかなと思いますし、その方々にしっかりとした情報を発信していくというのは大切なことだと思います。特に医療だとか災害時の時の情報がしっかりと伝わっている環境は大切だと思いますので、実態を調べさせていただきたいと思います。外国人会議というのが川崎にはありまして、いろんな国の代表の方が入っていただいて川崎市行政に対してこういったところを改善したほうが良いよという提案を毎年頂いております。今年もいただいたものは、例えば川崎市に新たに転入された方に配る基本的な川崎市の情報が載っているウェルカムパックのようなものが各区によってばらつきがある。それは統一するべきではないかなという話を外国人会議の方から頂きまして、それは確かにそうだなと思いました。気付いたものを逐次行政にいただいて、それをなるべく反映する

ように取り組んできましたし、これからもそういった方々のご意見を伺っていきたいと思っております。いただいた 2 つのことについては調べさせて頂きたいと思ひますし、改善できるところは改善していきたく思ひております。ありがとうございます。

スニータさん：ありがとうございます。もともと保育園についてなんですけれど、外国人だけが困っているということではなく、日本人も保育園の数が少なくて赤ちゃんが入れないということです。入れない場合は仕事もできないということになっちゃって。ウェブサイトは全般のものは英語とかもありますけれど、詳しいイベントとかについてはあまりないかもしれません。それだけお願いします。

市長：イベント情報ですね。わかりました。これどういう形がいいのかなって思ひますけれど、少し知恵をひねりたいと思ひますが、例えばこういった市の情報を全部市の方で翻訳して情報発信していくというのが効果的でスピーディーに対応できるのかなというのを危惧しておひまして、イベント情報でもものすごい多いので、それをいろんな他言語に通じているボランティアの方たちにお手伝いだけできないかなということや、何か良い方法はないかなと考へてみます。ありがとうございます。

(3) 総括

今日はありがとうございます。必ずしもいただいたご質問にご納得いただけないケースもあったかもしれませんが、ご了解いただければと思ひております。特に今日は本当にたくさんの前向きな、こういったことができるというような、赤嶺さんもそうですし市川さんもそうですし、こういった人材が川崎市には豊富にいて、その人たちがやる気を持っているんなことができるんだということを改めて私も認識させていただきましたし、そういった人材をうまくくっつけるということを、それを地域の中で本当にうまくいかせる地域づくりをやっていかなければならないなと改めて実感しました。まちづくりはやはり主体は市民のみなさんでありますので、ぜひこれからも一緒になってやっていきたいと思ひます。ありがとうございます。